

仲田泰祐＋藤井大輔 著

Nakata Taisuke

Fujii Daisuke

# コロナ危機、 経済学者の挑戦

感染症対策と社会活動の両立をめざして

はしがき

■ 本書の背景

2020年初頭に瞬く間に世界中に広がった新型コロナウイルス感染症は、人々の命・暮らしに大きな影響を及ぼしました。そして、コロナ危機への対策として打ち出された行動制限などのさまざまな政策もまた、人々の命・暮らしに大きな影響を及ぼしました。

そんな中、政策現場では「できるだけ科学的な知見に基づいて政策を決定したい」という思いが、一般の人々の間では「採用された政策の根拠が知りたい」という思いが、目を追うごとに強くなっていったと観察しています。どのような政策に関しても同様の思いはあると考えられますが、コロナ危機においては、政府の政策が数日後の自分の生活に大きな影響を与えることもあり、政策と人々の生活との距離が非常に近い状況でした。そのため、こうした思いは平時よりも大きかったのではないかと考えています。

私たちは、2020年の末に「感染症対策と社会・経済活動の両立」を模索する際の参考資料となりうるデータ分析・モデル分析を世の中に提供したいとの思いでコロナ分析を始めました。そして、当初の想定をはるかに超える反響をいただき、政策現場から分析を依頼され、メディアや一般の方々にもご注目いただきました。その背景には、先述のような政策現場、一般の方々の想いの強さがあると考えています。

私たちの分析は、現在（2022年8月）も続いています。2021年春から、私たちの活動を追いかける形で定期的に、雑誌『経済セミナー』の編集部にインタビュー形式で取材していただき、それらの内容をまとめる形で完成したのがこの本です。

## ■本書の目的

この本を執筆した目的は二つあります。

一つ目は、私たちの分析をより多くの方々と共有することです。

過去の分析のほとんどは私たちが運営するホームページ上で公開していますが、この本ではそれらの分析の中でも重要度の高いもののエッセンスを紹介しています。私たちの感染シミュレーション分析は2021年の1月以降、緊急事態宣言やまん延防止等重点措置の発令・解除の意思決定のたびに、政策現場の方々に届けられてきました。同様に、2021年夏の東京2020オリンピック・パラリンピック開催に際しても、分析が政策現場に届けられました。もちろん、私たち以外のいくつかの研究チームも政策現場に感染シミュレーションを届けてきましたが、私たちの分析を知っていたかどうかで、コロナ危機において「政策現場ではこういう感じの感染シミュレーションが参照されていたのだな」というイメージを持つことができると思います。そういったイメージを持つていただくことは、読者の皆さまがコロナ危機における政策決定プロセスについての理解を深めるための一助となるのではないかと考えています。

また私たちは、この本の中で何度も言及するように、コロナ禍を通じて、コロナ危機による社会・

経済への負の影響が、日々報道される新規感染者数や重症患者数などの感染・医療に関する膨大な情報に圧倒されて、一般の方々あまり伝わっていないのではないかと、この危機感を抱いていました。それは現在も同様です。コロナ危機における社会・経済に関する情報が広く共有されていなければ、「感染症対策と社会・経済活動の両立」を、バランスよく議論することは困難でしょう。この本で言及されている社会・経済への負の影響に関するさまざまな分析が、コロナ危機の中で社会・経済の状況に目を向けていただくきっかけになれば幸いです。

もちろんこの本では、インタビュ形式ということもあり、分析の詳細については解説していませんし、この本では取り上げていない分析もたくさんあります。しかしながら、この本をきっかけとして私たちの分析に興味を持ってもらえれば、「パンデミックにおける感染症対策と社会・経済活動の両立」というトピックに関する議論が今後さらに深まる一助となりうると考えています。

二つ目の目的は、私たちがコロナ分析を通じて得た経験を、より多くの方々と共有することです。

さまざまな偶然の重なりから、私たちは内閣官房新型コロナウイルス等感染症対策推進室、首相官邸、厚生労働省新型コロナウイルス感染症対策アドバイザリーボード、新型コロナウイルス感染症対策分科会、東京都オリンピック・パラリンピック準備局といった政策現場に、分析を直接提供する機会をいただけてきました。また、大人数で構成される研究チームを短期間で立ち上げる、それを世の中にタイムリーに届けるためにオンライン (Zoom) で分析の説明会を毎週行い、メディアの方々から取材を頻繁に受ける等、大学に所属する一研究者としてはユニークな経験をする機会をいただきました。

した。

私たちが専門とする経済学の分野では、研究成果を直接的に社会に役立てたいという想いをもった研究者が増えています。また海外でも日本でも、ビジネスや政策の現場で経済学の手法を用いた分析を行う、もしくは企業や行政が専門的な学位を修めた経済学者を採用する、といった場面が増えていきます。もちろん、経済学以外では、すでに研究者がビジネスや政策の現場で日常的に活躍している分野もあるでしょうし、経済学のように社会実装により力を入れたい研究者が増えている分野もあるでしょう。

したがって、私たちの経験は、政策現場に分析を直接提供することに興味のある研究者の方々、研究者と今後積極的に協力していこうと考えている政策現場の方々、そして研究者の分析を世の中に伝えることに関心のあるメディアの方々にとって参考になるのかもしれないと考えています。

#### ■想定する読者

ここまで述べてきたことをふまえて、本書は特に以下のような方々にとって興味深い内容を提供できると考えています。

- ① 研究者と協力することに興味のある政策現場の方々
- ② 政策現場・一般の人々に分析を届けることに興味のある研究者の方々
- ③ 研究者による分析を報道することに興味のある方々

- ④ ①②③の世界に興味のある学生の方々
- ⑤ コロナ禍における政策決定プロセスに興味のある方々
- ⑥ より広く科学コミュニケーションについて考えたい方々

## ■ 謝辞

2021年1月にホームページを立ち上げた際に、「免責事項」と題したページに以下の文章を掲載しました。<sup>2</sup>

皆様の声援・批判によって、モデルもモデルを使って分析する我々も成長します。我々のモデルは生まれたいばかりの赤ちゃんのような存在です。愛情を注がれて、しっかり栄養を吸収することですくすくと育ちます。ときには叱ってあげることも必要です。

私たちの研究チームが誕生してから、約20カ月が経ちました。その間、声援を送ってくださった方々、愛情を注いでくださった方々、厳しいご批判をくださった方々、それらすべての方々に感謝しています。

短期間で大人数からなる研究チームを構築するためには、研究資金が不可欠でした。研究資金を提供してくださった方々——東京大学、東京大学金融教育研究センター、東京経済研究センター、日本学術振興会科学研究費助成事業、科学技術振興機構社会技術研究開発センター、内閣官房 COVID-19 AI・シミュレーションプロジェクト（三菱総合研究所）——に深く感謝いたします。

また、共同研究者の方々、研究チームのアシスタントたち、メディアの方々、私たちの分析を活用してくださった政策現場の方々、ここですべての方々のお名前を挙げることはかたがたありませんが、この場を借りて皆さまに感謝の気持ちをお伝えしたいと思います。

本書の作成にあたり、これまで私たちの分析を活用してくださった方々数名からコメントをいただき、関連の深い各章の章末にそれらを掲載しています。ご多忙の中、率直かつ優しさに溢れたコメントを提供してくださった大竹文雄さん、北野宏明さん、久保田荘さん、須江真太郎さん、中村英正さん、服部直樹さん、前村聡さん、村野俊さん、山下英俊さん、脇田隆字さん、和田耕治さんに深くお礼を申し上げます。異なる業種・分野の方々とは仕事をし、議論を重ねるといった経験には不慣れなところもあり、こちらが迷惑をかけたことも多々あるとは思いますが、それでも長くお付き合いいただき、またそこから一定の信頼関係が生まれたことに喜びを感じています。

今回のコロナ分析は、自分の本来の研究を中断し、これまでのキャリアで培ってきた自分の能力のすべてを尽くして取り組みました。メディアと密接な対話を継続して行うこと、大きな研究チームを率いること、日本の政策立案者・政治家に直接分析を説明すること等、自分にとって初めての経験も多く、戸惑うことも多々ありました。そんな中、常にこの活動に前向きに取り組むことができたのは、家族・友人の支えがあったからです。また、このプロジェクトを遂行する中で、藤井大輔さんからは要所々々で共同研究者という役割を超えた温かいアドバイスとサポートをいただきました。2021年になってから大きく増加したさまざまな事務作業を、前向きな姿勢で迅速かつ的確にこなしてくれた秘書の神亜紀子さんの存在も大きな支えでした。この場を借りて深く感謝いたします。

最後になりますが、この書籍を発案し、すべてのインタビュアーを担当しつつ、同時に私たちの分析をこの約20カ月間丁寧<sup>3</sup>に追いつけてくださった経済セミナー編集部の尾崎大輔さんに感謝いたします。

2022年8月

著者を代表して

仲田 泰祐

注

- 1 仲田・藤井が運営するホームページ：2021年1月にオープンした当初のサイト「日本でのコロナ感染と経済活動」(https://covid19outputjapan.github.io/jp/)、2022年5月にリニューアルしたサイト「感染症対策と経済活動の両立」(https://www.bicea.e.u-tokyo.ac.jp/)。
- 2 ホームページ「日本でのコロナ感染と経済活動」内の「免責事項」のページ(https://covid19outputjapan.github.io/jp/disclaimer.html)。
- 3 なお、本書で言及されている方々の所属・肩書きは原則として執筆当時のものである。



## 著者紹介

仲田 泰祐（なかつた・たいすけ）

東京大学大学院経済学研究科および公共政策大学院准教授。

専門はマクロ経済学、金融政策。2003年にシカゴ大学経済学部を卒業し、同年よりカンザスシティ連邦準備銀行調査部アシスタントエコノミスト。12年にニューヨーク大学にてPh.D.（経済学）を取得。米国連邦準備制度理事会（FRB）調査部エコノミスト、同シニアエコノミスト、同主任エコノミストを経て、20年4月より現職。21年、第6回円城寺次郎記念賞受賞。

藤井 大輔（ふじい・だいすけ）

東京大学大学院経済学研究科特任講師。

専門は国際貿易、企業間ネットワーク、マクロ経済学。2007年、アメリカ創価大学にてリベラルアーツの学部課程を卒業。その後09年にハーバード大学にて修士号（統計学）、2014年にシカゴ大学にてPh.D.（経済学）を取得。南カリフォルニア大学経済学部研究員、カリフォルニア大学ロサンゼルス校経済学部講師等を経て、18年より現職。

# 目次

はしがき…………… i  
著者紹介…………… ix

## 第1章 ある経済学者の挑戦 コロナ分析プロジェクトの船出

1 プロジェクト開始、走りながらの体制づくり…………… 2  
2 専門家、メディアからの注目…………… 8  
3 「わかりやすく伝える」ための徹底した工夫…………… 10  
4 ホームページを活用した、分析の「毎週更新」…………… 13  
5 チームを拡充しながら、毎週更新を死守…………… 18

### インタビュー

大竹文雄(20) 久保田荘(22)

第2章 感染と社会・経済の見通しを描く 数理モデルと政策分析

25

- 1 両立を模索するためのモデル……………25
- 2 シンプルなモデルだからわかること……………29
- 3 経済学者たちとの議論…シンプルモデルへの疑念……………32
- 4 モデル分析の結果をどう見ればよいか？……………35
- 5 経済学におけるサイエンスとエンジニアリング……………38

インタビュー

久保田 荘 (43)

第3章 感染症専門家との対話 リスクをどう捉えるか？

47

- 1 感染症・公衆衛生の専門家との対話のはじまり……………47
- 2 中・長期スパンの見通しが必要……………51
- 3 経済学は「トレードオフ」に目を向ける……………56
- 4 感染症・公衆衛生の専門家とのインタラクション……………59
- 5 視点の違い……………64
- 6 感染症危機に向けて何ができるか？……………68

## 第4章 分析チームの構築とマネジメント 「毎週更新」実現のために

- 1 なぜ大きなチームが必要なのか? ..... 78
- 2 多様なつながりを活かしたチーム・ビルディング ..... 83
- 3 チーム編成とそれぞれの役割 ..... 86
- 4 支え合うチームのマネジメント ..... 90
- 5 改めて、大きなチームで取り組むことの意義 ..... 97

## インタビュー

浅井寛之・笠井美穂・前田湧太・森公毅 (100)

## 第5章 五輪分析に込めた想い 分断を乗り越えるために

- 1 五輪開催の議論に定量的な分析を提供したい ..... 105
- 2 定量分析から得られた気付き ..... 111

3	第1弾の定量分析を公表	114
4	コミュニケーションと言葉遣いの難しさ	119
5	第2弾分析は開催環境と観客数の情報整理から	121
6	直接的・間接的影響と負のアナウンスメント効果	126
7	政策現場と研究者の関わり	133
8	五輪分析を振り返って	137

**インタビュー**

中村英正 (139)      前村聡 (141)

**第6章 メディアとの対話 伝えることの難しさ**

1	なぜメディアへの発信を重視するのか?	145
2	モデル分析の受け止め方・使い方から発信	150
3	メディアとの信頼関係の構築	153
4	海外から見た日本の感染動向と東京オリンピック	159
5	「見通しの提示」と「未来予測」の違い	162
6	政策提言か? 判断材料の提供か?	166
7	メディアと研究者の関わり	172

前村聡 (174)

須江真太郎 (177)

村野俊 (179)

## 第7章 政策現場との対話 いかにして必要とされる知見を届けるか？

183

- 1 政策現場との関わり……………184
- 2 政策現場は何を求めているのか？……………188
- 3 何を、どのように伝えるか？……………193
- 4 外部の研究者だからこそ果たせる役割……………199
- 5 政策現場は科学的知見を求めている……………201

北野宏明 (207)

服部直樹 (211)

山下英俊 (215)

## 第8章 感染症対策の背後で起きていること 広い視野で議論するために

219

- 1 コロナ禍における自殺…社会で何が起きているのか？……………220
- 2 コロナ死者を回避するために経済損失をどれだけ受け入れられるか？……………225

3	コロナ感染と人流の関係	231
4	検証の重要性	239

第9章 **感染症対策と社会・経済活動の両立をめざして** 247

1	提言ではなく、選択肢を提示する	248
2	社会への負の影響に対する危機感の共有	255
3	研究者とメディア・一般の距離を縮める	261
4	将来起こりうる危機に備えるために	266

**インタビュー**

大竹文雄 (271)      脇田隆宇 (273)

■ インタビュー実施日

本書は以下の日程で収録されたインタビュー内容をもとに、その後の情報も加えて執筆された。

第1章	2021年6月18日
第2章	2021年3月19日、6月18日
第3章	2021年7月1日
第4章	2021年7月15日
第5章	2021年7月29日
第6章	2021年8月19日
第7章	2021年10月27日
第8章	2021年11月24日
第9章	2022年3月21日



## ■著者紹介

仲田 泰祐 (なかた・たいすけ)

東京大学大学院経済学研究科および公共政策大学院准教授

藤井 大輔 (ふじい・だいすけ)

東京大学大学院経済学研究科特任講師

## ■二人が運営するコロナ分析発信サイト

- ◆ 2021年1月に開設された当初のサイト「日本でのコロナ感染と経済活動」  
(<https://covid19outputjapan.github.io/JP/>)
- ◆ 2022年5月にリニューアルされた新サイト「感染症対策と経済活動の両立」  
(<https://www.bicea.e.u-tokyo.ac.jp/>)

# コロナ危機、経済学者の挑戦

感染症対策と社会活動の両立をめざして

2022年9月20日 第1版第1刷発行

---

著者 仲田泰祐

藤井大輔

発行所 株式会社日本評論社

〒170-8474 東京都豊島区南大塚3-12-4

電話 03-3987-8621 (販売) 03-3987-8595 (編集)

<https://www.nippyo.co.jp/> 振替 00100-3-16

印刷所 精文堂印刷株式会社

製本所 株式会社難波製本

装幀 図工ファイブ

---

検印省略

© Taisuke Nakata, Daisuke Fujii 2022

落丁・乱丁本はお取替えいたします。

Printed in Japan ISBN 978-4-535-54036-1

**JCOPY** <(社) 出版者著作権管理機構 委託出版物>

本書の無断複写は著作権法上での例外を除き禁じられています。複写される場合は、そのつど事前に、(社) 出版者著作権管理機構 (電話 03-5244-5088、FAX 03-5244-5089、e-mail: [info@jcopy.or.jp](mailto:info@jcopy.or.jp)) の許諾を得てください。また、本書を代行業者等の第三者に依頼してスキヤニング等の行為によりデジタル化することは、個人の家庭内の利用であっても、一切認められておりません。